

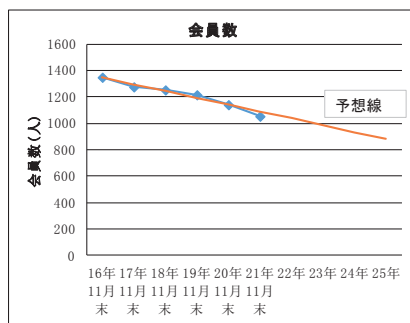
## 2022年は 山登りできるうれしさを感じる年に！

2022年は停滞した登山活動を再建できる年と信じています。登山技術も変化しています。再開に向けて下記2点積極的に取り組みましょう

- 1) 山登りに必要な基本的な体力をつける
- 2) 読図やセルフレスキューなど基本的な技術を再勉強する

特にベテランの方は、上記2点が疎かになってしまうのではと心配しています。

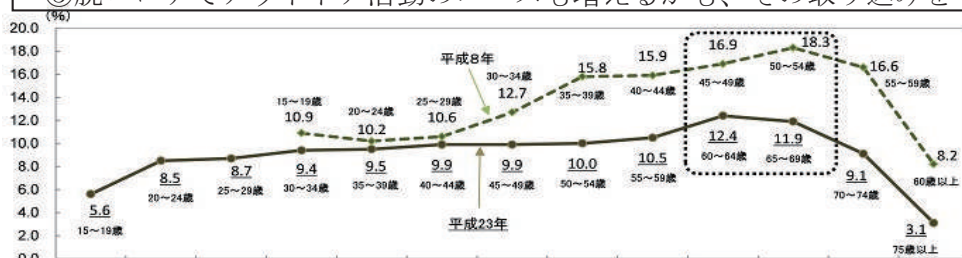
次に大阪労山の会員数について説明します。ここ2年での減少は大きく、あと5年で800人を下回ると予想されます。年-3.9%の減少率です。



おもしろいデータがあります。H8とH23を比べ、世代の何%が山に行くのかという統計です。H8年は、30～39歳の世代で登山活動を始めていますが、H23年はその傾向が見られません。

活発だった40代50代も15年たつと1/3が登山をやめていく事がわかります。60代以上に限ると62%がやめていきます。この減少率は年-4.1%です。まさに大阪労山の減少率です。そこで提案です

- ①30～39歳の世代への呼びかけ
- ②60歳以上が魅力を感じる会活動
- ③脱コロナでアウトドア活動のニーズも増えるかも、その取り込みを



「平成28年社会生活基本調査結果」(H28年8月10日総務省統計 Topics96)

ついでに山岳事故と交通事故を比較し、登山は1桁安全と言う事がわかりました。  
 登山事故率 0.03% (2697人/970万人；R2警察庁資料とH28総務省資料)  
 交通事故率 0.37% (30万5425件/8249万台；R3交通事故総合分析センタ)  
 ∴登山は、健康増進や社会的負担も減少させる国全体のメリットと言えます。